

過疎地域自立促進特別措置法や離島振興法などで指定されている中山間地域を有する市町は、広島県内23市町の中で19市町あります。つまり、県内ほとんどの市町では、少子高齢化といった中山間地域の問題を抱えているということです。

中山間地域が抱える問題は、実は都市部にとっても深刻な問題です。農林業の衰退は、都市部への水や農作物の供給に大きなダメージを与えます。

そのため、広島県では中山間地域が抱える問題を重要課題と捉え、昨年10月に「広島県中山間地域振興条例」を制定し、その取り組みを進めています。

都会の刺激を求めて外に出ていく人を引き留めることはできません。それよりも、田舎にしかない魅力を再発見し、その価値に共鳴する人たちのU・Iターンの支援

に力を入れることが大事だと考えています。

田舎には都会のような便利さはありません。しかし、田舎に都会の便利さを持ってきてもその魅力は上がるでしょうか。それよりも、今存在するものにこそ、価値があると思っています。

よく「うちの田舎には何もない」と言われますが、住んでいる人にとって、あまりにも身近にありすぎて、その資源や魅力に気付かないことも多いのです。だからこそ、地域に新しい視点を持った人が必要なのです。

田舎には、「変えなければならないもの」と「変えてはならないもの」があります。閉鎖的な部分は「変えなければならないもの」であり、風景、コミュニティ力など不便さも含めた多くの「田舎の魅力」と言われるものは「変えては

ならないもの」だと思います。

現在、「田園回帰」という言葉が取り上げられるようになりました。ある調査では、首都圏で年代に隔たりなく、地方への定住に関心が高まっているという結果も出ており、田舎暮らしを求める人は潜在的に多くいると感じています。そこで県では、東京都千代田区にある「ふるさと回帰支援センター」に職員を常駐し、田舎暮らしを求めると地域を結びつける取り組みも今年度から始めています。

「日本創成会議」が公表したデータはショッキングなものでしたが、それはあくまで「何もしなかった」ときの場合のこと。必要以上に恐れることはないと考えます。

それよりも私たちがしなければならないのは、中山間地域が持つ魅力や資源に気づき、地域内で生かす仕組みをつくること。そのために地域に活力を生み出す原動力となる人を地域内外で支えることなのです。

また、これから地域づくりで重要視されるのは女性視点。女性には地域の中で培ってきたコミュニケーション力があります。その力を生かして地域づくりに活用してほしいですね。

50年先の未来はいくらでも変えられます。今必要なのは、100年先の未来につながる行動なんです。



広島県 地域政策局  
中山間地域振興課  
木村 富美課長

未来はいくらでも変えられます  
今必要なのは、  
100年先につながる行動なんです

# 女子力は、 地域力

女性の良いところは、  
一歩目を踏み出すときの  
段差がないところです



ローカル&ナチュラル  
フードコミュニケーター  
わだ・ゆうこ  
和田 裕子さん

Profile  
元島根県大田市職員。島根県邑南町に移住。地元商品の発掘・開発、地域コミュニティ事業プロデュースなどの活動で全国的にも注目されている。

丁寧な暮らし方の教科書は世の中にたくさん出回っていますが、それを実践する場所が田舎。大人が楽しそうにしていると、その姿を見た子どもは楽しいと思うようになります。そういうつながりが地域を良くしていくのだと思っています。



写真上 パネルディスカッションの様子。写真下 会場内では地元の産品が販売された。

くじまの森  
やまさき・まり  
山崎 麻里さん

欠かせないものは感謝の気持ち。市民センターの花や大峰山の道がきれいなのは、地道な活動を行っている地域の人がいるからこそ。そういったことに気付けるようになりました。



前川農園  
まえかわ・すずみ  
前川 すずみさん

農業は加工・販売まで行えば、生業として十分やっていけると思っています。農ガールのためのウェア開発などを通じて女性らしさを捨てずにできる農業の可能性を追求しています。



榊ハーストリープラス  
代表取締役  
さとう・みどり  
佐藤 緑さん

ポジティブに、まず何かやってみようという気持ちが大事です。地域同士がつながれば、素晴らしい事業体になります。まちが潤うような次世代へつなげる活動が必要です。

まちが消滅する。ショッキングな言葉が日本中を震撼させた。「日本創成会議」のデータによると、全国で約半数の都市が、「将来的には消滅の可能性がある」というものだった。その理由は、若年女性の流出。そんな中、広島県では県内各地で、中山間地域リレーシンポジウム「地もとーく+」を開催。廿日市市では、9月20日「さいき文化センター」で行われた。今後、過疎対策の大きなベクトルとなるのは、「女性視点」ではないだろうか。

まちが消える

日本全国で中山間地域の人口流出が止まらない。そんな中、民間有識者でつくる「日本創成会議」（座長・増田寛也元総務相）が今年5月に発表したデータが全国の自治体を揺さぶっている。2040年に全国の896市町村が「消滅」の危機に直面するというものだ。

「日本創成会議」が着目したのは、現在、出産する年齢の95%を占める20〜30代の若年女性の減少率。2010〜2040年の若年女性減少率が50%を超える市町村は、いくら出生率を引き上げても人口減少が止まらず、最終的には消滅する可能性があるとしている。

その中で廿日市市の若年女性減少率は▲52.0%と予測され、「消滅可能性都市」の中に含まれている。

厳しい中山間地域

沿岸部でさえ関東や関西圏の都市部に人口が流出していく中、中山間地域では集落の小規模化や高齢化が大きく進み、さらに厳しい現状に直面する。

広島県では、将来に向けて持続可能な中山間地域を実現していくため、昨年10月に「広島県中山間地域振興条例」を制定。また、本年度から新たに「中山間地域振興課」に名称変更し、その推進に取り組んでいる。

地もとーく+

その取り組みの今年度の主軸が中山間地域振興リレーシンポジウム「地もとーく+」。中山間地域の持つ価値を再発見するため、今年度は県内各地で開催する。廿日市市では、9月20日「さいき文化センター」で「女性の『つながりチカラ』を、「地域のチカラ」に」と題して行われた。

「つないで輝く地域のチカラ」と題したローカル&ナチュラルフードコミュニケーターの和田裕子さんの基調講演をはじめ、コイデイネーターと4人のパネリストは全て女性。地域との関わりを深める女性からの視点で、その取り組みの意義、これからの中山間地域の在り方を語り、約200人の参加者がその言葉に耳を傾けた。